平成 31 年 3 月 20 日

平成 30 年度 武蔵野市立第三小学校 学校評価報告書

【評価 A:十分に達成されている B:概ね達成されている C:達成がやや不十分である D:達成が不十分である】

校長名 伊野 啓子

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
学習指導	基礎基本の定着を確実に行い、学習の習慣化を図る。	算数科では、習熟度別の学習を行い、児童の実態に合った内容や進度を工夫しながら授業を行った。国語科では、毎日の音読練習や月ごとに詩の暗唱を行い、日常的に国語に親しむ機会をつくることができた。	B	ベイシックドリルの活用や授業改善プランを実践しながら、習熟度を高めていく。国語科では、今年度、暗唱した詩の発表集会を2回実施したが、学期に1回行い、さらに充実させる。教材文に関係のある本を紹介し読書を広げる。	国語の力を付けさせることは、重要である。きちんと文章を読み取ったり、話の内容をまとめたりすることが、他教科の内容理解にもつながり、社会でも役立っていく。声に出して、きれいな言葉や新しい言葉を発することが、言葉を正しく使うことを意識することや言葉の習得になっていく。伝えたいことをまとめて書く力も大切にしてほしい。
	問題解決型の学習により、主体的・対話的な深い学びを実現する。	校内研究で行った国語科を中心に、自分の考えをもち、伝え合う活動をとおして、自分だけでは思いつかない考えを生み出したり、自分の考えをさらに深めたりすることができた。	A	必然性のある対話を生み出すための課題や教師の働き掛けをさらに追究していく。また、今年度は文学的文章を重点に研究を進めてきたので、来年度は説明的文章においても、問題解決型の学習を全校で系統的に行う。	国語の教材文を積極的に読んでいる様子が見られた。読み取る技術を身に付けることで、わかったという実感をもち、その読み方が、系統的に生かされていくことが伝わって来た。人に伝えたり、説明したりする機会をもつことで、自分の気持ちを言葉で発することができるようにしていきたい。
	体力向上と健康の保持増進を推進し、運動に親しむ資質や能力を養う。	日々の体育授業だけではなく、体育朝会や休み時間を活用し、体力の向上に取り組んだ。特に体育朝会では、本校の課題である「投げる力」に特化した内容を充実させることができた。	B	活動自体は充実させることができたが、その効果について検証が不足しているところがある。体力テストの時期だけでなく、継続的に児童の体力の高まりを把握していく必要がある。休み時間や朝、放課後の遊びに、体育科の内容をさらにつなげていく。	朝や放課後の「あそべえ」の利用が大変多い。ボールを蹴ったり投げたりする様子もよく見かける。コミセンでの卓球デイの呼びかけをしたところ、参加者が増えた。大学生の指導者もいるので、さらに増えることを期待している。体育科の授業や体育朝会、クラス遊び等での活動が日常の遊びにつながるとよい。
	《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》 ・基礎的、基本的な能力を定着させるために、習熟度別算数授業や金曜まなべえ、他教科授業でも個に応じた指導を進める。国語科や算数科を中心に研究を継続し、主体的対話的な深い学びを目指していく。以前研究した理科の問題解決学習についても、共通理解を図る機会をつくり、学校全体で各教科での問題解決学習を推進する。深い学びや主体的な学びを展開するために、授業での振り返りの時間を重視し、自分の考えの変化や自分の変容について意識できるようにしていく。・体育科や体育朝会、クラス遊び等を通して、運動に親しむ活動を充実させ、日常の遊びや運動につなげていく。				

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
生活指導	いじめや不登校の未然防止、早期発見に努める。	木曜日の休み時間にクラス遊びを設け、児童同士の関係を丁寧に見取ることができた。生活指導全体会や生活指導夕会、いじめ対策委員会などで情報を共有し、指導に当たることができた。ふれあい月間の取組を通し、児童の訴えに耳を傾け、寄り添った対応を図ってきた。	B	児童と共に活動し、児童理解に努め、些細な変化を見逃さずに対応し、学校いじめ対策委員会等の組織で検討し対策を練り実施する。SC や派遣相談員を効果的に活用・連携し、児童や保護者が相談できる体制を整える。個別懇談日や保護者会を充実させ、保護者との連携を図る。	アンケートだけに頼らずに、また、いじめがないと決めつけずに、児童の様子をよく見て、気を付けていくことが必要である。なかまはずれやいやな事を言う等、日常の様子や言葉から感じ取れるようにしてほしい。いじめをさせない、解決する等の対策を立ていく必要がある。家庭でのゲームについては、時間を決めて制限することが大切である。
	学校や社会のルールを学び、規範意識を醸成する。	たてわり班活動、クラブ活動、委員会活動などを通して、学年を超えた働きかけが活発となり、規範意識を養うことにつながっている。善悪の判断は分かっていても行動が伴わないことがあるため、ルールは社会生活でも大切であるという自覚をもたせ、いかなるときでも規則は守るべきという意識を育む。	B	一人一人が大切にされ認められているという実感をもたせるように指導していく。学校全体で規則の共通理解を図り、全体で指導する。たてわり班活動やクラブ活動など異学年交流の中でさらに規範の必要性を実感させ、とるべき行動が身に付くように指導していく。また、その様子を家庭地域に知らせていく。	廊下や地域で歩いている時に、挨拶が増えてきている。コミセンでの挨拶もよくできている。ルールについては、わかっているけれど、守れないことがある。ルールについての具体的な指導が必要である。後片付けやゴミ出しなどの基本的な習慣は、繰り返し教えながら、やるべきことはやるという責任感をもたせていきたい。
	全教育活動を通して道徳教育を推進し、思いやりのある心を育成する。	週1回の道徳科の授業を丁寧に行い、ふれあい月間の取組、学級活動、たてわり班活動やクラブ活動などにおいて、相手の状況に応じた言動について丁寧に指導にあたってきた。特に、言葉遣いについては、感情的に、安易に、相手を傷つけてしまう言葉を発してしまうことがあるため、道徳的心情を育んでいく。	B	全教育活動を通して、行動の良い点を認め励ましたり、相手の思いや良さを認められるような関係を築いたりすることを継続して行う。また、道徳的心情、判断力、実践意欲と態度を育成するために、家庭、地域と連携し共に児童を育てるという意識を高めていく。特に、言葉遣いについては、共通して取り組む。	道徳の授業を見学して、穏やかに言われると心に響いてくる言葉があると感じた。言葉遣いについては、個人差がある。いやな気持ちを、言葉できちんと説明できるようにさせていきたい。たくさんの仲間と遊ぶ中で、言葉のやりとりを経験せることが大切である。親同士の交流が、児童の交流にもつながっていく。
	《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》 ・児童と共に過ごし、児童理解に努めていく。児童の言葉に耳を傾けたり、仲間関係を見取ったりし、少しの変化にも気付けるようにして対応を図る。学年担任が協力し合い、学年全体の児童を見ていくようにし、学年担任との信頼関係を築き児童に安心感をもたせる。学校全体で組織的に取り組み、いじめや不登校について対応を図り、専門機関と連携していく。また、保護者との連絡を密に行い、協力を得ていく。ルールの意味を指導し、学校全体で徹底できるように全教員で指導を図るとともに、良い例を伝え児童を認め励ましていく。言葉遣いについては、引き続き学校や家庭において、連携して取り組んでいく。言葉の持つ意味の重要性を理解できるよう、道徳の授業や全教育活動を通して指導を継続する。				

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
学校運営	組織的な学校運営・進行管理の推進を図る。	・事前の教務の声掛けにより、それぞれの分掌が円滑に機能している。様々な行事や、施設改善について、事務職員や主事の協力を得て、成果が出ている。 ・研究発表に向けて、研究主任を中心に準備を進め、教員の理解が図られ、成果が現れた。	B	・異動にも対応できるように、どの分掌もペアやグループで行い、引継ぎや改善がさらにしっかりと行えるように環境を整えていく。 ・懸案事項が増えても、計画的に会議を設定するとともに、設定後は早めに時間や場所を周知して定時で始め、定時で終えるようにしていく。	教職員が大変仲がよく、チームワークがよいのがわかる。学校が明るい雰囲気である。児童にも、その様子が伝わっているように感じる。 研究発表の内容がよく伝わり、日頃の授業でも実践されていることがわかった。講師の先生の講演内容もよくわかりよかった。
	個に応じた指導を行い、配慮の必要な児童に組織的に対応し、特別支援教育を推進する。	・ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰを中心に、配慮の必要な児童を把握するための全体会や校内委員会、日常の情報交換で、共通理解できている。 ・ひまわり学級の児童との交流が、行事や授業で、進んだ。 ・はなみずき教室の教員と担任との連携が進んだ。	B	・保護者に特別支援教育について、周知を図るために、様々な機会で伝えていく。 ・個別に対応した点について、保護者に今後も知らせ、必要に応じて定期的に学校の様子を、面談で知らせていく。 ・SC、相談員、SSW、SS、TA等との連携を十分に図っていく。	ひまわり学級の児童が、学芸会でとても上手に演じていた。見ている児童も、温かな眼で見ているのがわかった。通常の学級の児童との関わり合いが自然で、互いに知り合っている関係がよい。SCや派遣相談員などに、児童や保護者が相談できる体制があり、安心できる。
	家庭・地域との連携を推進する。	・通信やホームページ等で、学校の様子を知らせてきた。 ・地域諸団体等との連携をはかり、児童の健全育成につながった。 ・地域の教育力を活用した指導を充実させることができた。	A	・さらに、保護者会や面談の内容の改善・充実を図り、相談しやすい雰囲気をつくる。 ・夏季休業中の地域の方々との懇談会を継続し、地域の人とのつながりを築く。 ・南町カーニバルやどんど焼き等の地域行事に教職員が積極的に参加していくようにする。	通知表の総合的な学習の時間の評価や外国語活動等、文章で評価する場合には、その児童の特徴を捉えた評価をしてほしい。どんど焼きでは、先生方が昔遊びのコーナーを担当し、遊びながら教えている様子が微笑ましく感じられる。家庭では、早寝早起き、言葉遣い等のしつけをしていくことが大切である。
	《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》 自分の役割分担に責任をもつとともに、他分掌と協力したり補いあったりして校務分掌を行い、チーム三小として団結する。 2020年度の90周年に向けて、地域、同窓生や保護者と連携して準備を計画的に推進していく。児童の豊かな発想も取り入れながら、学校を大切に思う気持ちを育んでいく。保護者や地域に学校の様子をよくわかるように知らせて、協力を得るようにしていく。児童や保護者が相談しやすい雰囲気をつくったり、はなみずき学級、ひまわり学級や外部機関、専門家と連携したりして、相談活動や特別支援教育を推進する。ひまわり学級との交流活動を計画的に行っていく。				